

奈良・定林寺北方遺跡

## じょうりんじほっぽう

- |      |                |                |
|------|----------------|----------------|
| 3    | 2              | 1              |
| 発掘機関 | 所在地            | 奈良県高市郡明日香村大字立部 |
| 調査期間 | 一九九三年(平5)六月~七月 | 明日香村教育委員会      |

- 7 6  
遺跡の年代 五世紀～一四世紀

- 8 木簡の釈文・内容

定林寺は七世紀前半に造営が始まった飛鳥時代の寺院の一つである。丘陵上部に寺域を設ける点で、飛鳥地域の古代寺院では、檜隈

寺などと類似する

「智」や「道」の字を習書したもの。上下両端及び左右両辺とも欠損していて、原形は不明である。

8 1  
7 橋本義則 納谷守幸

(吉野山)

橋寺の南に位置する仏頭山  
背後に源を発し、定林寺跡  
丘陵裾から天武陵の南を通  
り、欽明陵の南西で高取川

に合流する流路が調査区の南側を流れている。

調査の結果、この流路の前身と考えられる旧流路を数段検出した。木簡が出土した流路は、幅三m、深さ一mで東から西に流れる。遺物は瓦・土器類が整理用コンテナ二〇箱ほど出土し、軒瓦は定林寺所用の单弁十一弁軒丸瓦五点、川原寺式軒丸瓦二点、藤原宮式軒平